

## 座談会

— 練習風景今昔とそしてこれから — 昭和57年4月23日(金)  
伊勢半ビルにて。

### 出席者

吹野家寿吉(21年卒) 六角 勉(24年卒) 大塚伊三夫(27年卒) 前田 善二(27年卒)  
吉田 格磨(32年卒) 岡本 圭(32年卒) 井上洋之助(39年卒) 大嶋 俊次(43年卒)  
峰村 和幸(49年卒) 清水 政明(52年卒) 茂木 秀之(52年卒) 細田 仁(52年卒)  
粕谷 淳二(56年卒)



司会(大嶋) 本日は4月23日金曜日ですが、部誌の編集にあたりまして皆様方にお話しを伺いたいと思います。古いOBの方から新しいOBの方までこれだけ広く人々が集まっていたのははじめてのことかと思えます。そこで、昔の部生

活から今日の部生活に至るまでのお話しをうかがえたらと思います。でははじめに創立の頃の話をお話をお願いします。

### ★ 部創立の頃(昭和17年)

六角 うーん、そうね部創立当時というは大東亜戦争が始まった頃(一同笑い)そう昭和16年ね。それで翌17年の5月頃にね、日吉の坂の途中の右側の掲示板に部員募集のポスターが貼ってあったんですよ。当時は誰もバドミントンなんて知りゃしない。私もだ。でねそのポスターにね小さなラケットが描いてあって、そこに鳥の羽が置いてあって「入部希望者は経済3年の森友まで、って書いてあったんですよ。それで何か運動してみたいと思ってその森友さんを探ねて行った。そして聞いてみたんです。「バドミントンってどんなの」って。そしたら「ラケットで羽根を打つんだ」って言うんでね、「そりゃごめんだ、勘弁してくれ。」と言いましてね、やめようと思ったんです。が「そう言わないで入ってくれ。」と言われて横浜のYMCAで試合をやるから見に来るように言われ見に行ったんですが、羽が行ったりきたりするだけでおもしろくないんですよ。その上その頃は英語が使えないから鳥球(ちょうきゅう)と呼ばれて名前もさえないって感じでね。ところが実際打ってみたら何とむずかしいこと! で結局東京のYMCAに入りました。森友御兄弟がいらっやいました。一方横浜のYMCAには吹野さんがいました。つまり東京YMCAと横浜YMCAの2つに分かれて練習してたんです。でも試合は1つにまとまって慶応大学として出場



しました。これが部の発足なんです。ところが昭和17年10月に部が神田YMCAで発足した、という説があるんですが正式にはこの前だと思うんです。

その後は昭和18年にタイ国の留学生と試合をして同年10月には断髪令が出て全員丸坊主になって学辛繰り上げてみんなは兵隊に出されて結局昭和19年に活動は休止され再活動は戦後からということになります。

司会 その頃バドミントンのクラブはどのくらいあったのでしょうか。

六角 横浜YMCAと我々（東京YMCA）など東京の数チームそれにYCACという横浜の外人チームがありました。

司会 その頃の練習時間はどのくらいですか。

六角 YMCAの時間割に合わせて週2回2～3時間。部費はなかった。というのは入ること自体で部費みたいなものだったからですよ。その後横浜YMCAにいた広田君（28年卒）のお父さんのお世話で昭和21年春にへいらく小学校で活動再開しました。新入生募集したんですがほとんど入りませんでしたね。

#### ★ 戦後の活動再開期（昭和21年）

司会 その時入部されたのが前田さんと大塚さん。

前田 うーん藤井という人がいてね、おもしろい目立ったプレーをした人でね。それで興味をもってね。YMCAで小宮（27年卒）と知りあったんだ。それでどうせやるならサークルとしてじゃなくて体育会としてやりたいと思ってね。各部の承認を集めてね、とうとう昭和26年に体育会になったんだ。まあ我々の年代で体育会にしたという誇りはもってますね。それから葉山で合宿をしてようやく組織としてはっきりしてきた。

司会 そのころ部員は何人くらいでしたか。

大塚 12・3人だったけど卒業の時は20～30人もっといたね。

六角 昭和23年に慶応・法政・明治・立教で関東学生連盟を結成してね、昭和25年に全日本学生連盟の第1回の試合があってね。リーグ戦とかの試合もあってものすごく盛んになってきましたね。

司会 その一番最初に盛んになってくるころにどのような練習をされていたんですか。

六角 その頃はシャトルコックが手に入らなくてね。羽根をつくったんだ。セメダインともめん糸ににわたりの羽根とでね。

大塚 うちのにわとりが羽を抜いたんで、卵をうまなくなっちゃったんだ。おやじにおこられてね。その他獣医畜産の生徒が羽根をもって来てくれたね。

六角 港中学で練習してたんだけど窓ガラスは割れててね風は入ってくるしね。打てば天井にぶつかるしね。

前田 YMCAなんかは体育館にしろ羽根にしろぜいたくにやってたね。当然強いわけだ。

大塚 でも僕たちには使わせてもらえなかったね。すぐぶっこわすから。羽根をよなべで作ったね（笑）



六角 部費なんてとらなかったから自給自足だね。進駐軍と試合して羽根もらってきたね。昭和21年頃はいい選手もなくてね。奥井先生に相談したらいい選手は部の中で育てろといわれて高校に部を作ったね。

吹野 シューズもなくてね、はだしでやったこともある。すぐ親指に穴があくしね。上半身もはだかだね。ラケットのフレームも戦争中は竹だったよ。

#### ★ 昭和30年代（前半）

司会 最初の合宿はいつごろですか。

六角 （写真をみながら）葉山の合宿だね、昭和24年11月27日これが慶応の最初の合宿だね。それから館山、海のそばが多かった。マネージャーは大変だね。食料がなくてね、でもかなり力が入ってたよ。

司会 吉田さん岡本さんの時代にはずいぶん用具もよくなってきたんですか。

吉田 シャトルもあってかなりよかった。シャトルを運ぶのが1年生の合宿の役目になっていたから。28年頃から高校もやりだして合宿は88人くらいで行ったね。列車に入りきれなくてね。大学でも40～50人くらいはいたね。

岡本 天現寺で練習できたんだけどでも僕らはシャトルうてなくてね。最後の5分間くらいだね。ほとんど外でランニングでした。悪いことすると中に入れないうしね。（笑）1週間に4日くらいやったかな。

司会 休みの日はどうしてたんですか。

吉田 どっかの体育館を捜してね、1週間ほとんどやったね。その頃のマネージャーは体育館捜しが仕事だね。朝練習して夕方練習することもあってね。その間の時間は勉強していた（笑）天現寺も床が抜けたりしてね。

六角 僕ね天現寺の体育館のことでね卒業してから呼ばれてひどくおこられたことがあったね。昭和25年の時かな。

前田 じゃ僕らの時だ（笑）

司会 80人位の合宿というのはどこでやったんですか。

吉田 松本が多かったね。コートを2つにわけてね練習したよ。米を持っていきましたよ。合宿費が安くなるから。

岡本 朝食なんかは鳥のえさみたいな大根となまたまごとみそしる。ひどいもんだった。

#### ★ 昭和30年代（後半）

司会 このころまで慶応の黄金時代が続いたわけですが、その後井上さんの時代になるわけですね。

井上 35年から39年迄いたんだが、34年に記念館ができてね。3面だったけどインカレに優勝して4面になったんです。尾関さん（昭和34年卒）たちがお金を払い込んで練習せずに卒業しました。（笑）

六角 その頃は兵藤先生が体育の先生でよく面倒を見てくれた。成績もAをくれたはず。（笑）



司会 その頃が一番の黄金時代だったのではないですか。

吹野 いやリーグ戦では3位か4位だったね。立教になかなか勝てなくてね。僕が29年から監督になってね、やはり立教といつも決勝をあらそっていたね。その後法政だったね。

司会 どのくらい練習していたんですか。

井上 日吉記念館の他に使えない日もいろいろと他を借りて練習していたから毎日かな。幼稚園とか杉野とか。

司会 部員はどのくらいですか。

井上 僕らが下級生の頃はずいぶんいまして2年の時は50~60人いた。おそらくその頃がピークだったかもしれません。早慶戦にまけだしてから減ったね(笑)中央とかが強くなり出して。

吉田 高校のベスト4が中央・法政に入り他の学校がとれなかったからね。

#### ★ 昭和40年代

司会 井上さんと入れちがいに私が入部しまして、その頃から慶応が下降線をたどりだしまして、早慶戦も負けだしました。1つの節目だった気がします。2年の時に初めて2部におちました。コーチの方もずいぶん来て下さり密度の濃い練習もしてきたんですが、慶応にスポーツ選手が入ってこなくなってきました。

六角 国体にバドミントンが採用されたのが昭和28年頃で全般的に層が厚くなってその人たちが各大学へちらばったから他の大学が強くなったと思うよ。

司会 そして慶応は下降しだして、中央・法政が強くなってきました。

大塚 慶応が落ちたんじゃなくて全体のレベルが上がってきたんだよね。

六角 普及されてきて広まってきたからね。

前田 ところでね、ある女子高からね、バドミントン部を作るから是非慶応のバドミントン部に教えてもらいたいという要請をうけてね。その時ああ慶応のバドミントン部というのは伝統による信頼というかバドミントンの慶応というのが残ってると思ったね。

司会 女子高の話がでたところで慶応女子高の部はいつごろできたのですか。

六角 26年頃から女子高のバド部がつくられたのかな。

吉田 ええそれで僕らが1年の時、昭和28年に女子が大学に入ってきたんですよ。

司会 今日は私よりちょうどあとで慶応がいちばん弱かった時期の方が来ていただけてないのですが、そのころは部員数も12・3人にへりまして、2部の5位にまでなってレギュラーとかにわけることができず試合に臨みまして、部員を集めるという初歩の段階から始めるという事になりました。その後少し隆盛になりいちばんもりあがってきた時が清水君、茂木君、細田君たちの頃です。その頃の話を少し。

#### ★ 昭和50年代

細田 梶田・茂木・玉利・清水という4人のインターハイ選手が入ってきまして、その上新入部員は16人もいたので練習にも熱気があり、また絶対1部にあがるんだという意気込みがありました。そして2年の秋に1部に上がりました。ところが逆にその頃同好会のブームが著しくなってきた。



た時期でもあったんです。我々は学校を代表している体育会なんだ。またおおげさにいえば各大学の体育会学生が日本のバドミントン界を作るんだという気構えも強くもちましたね。

茂木 リーグ戦の応援も前日の夜2時過ぎまでいろいろ工夫して考え懸命にやりました。そのパワーというのが今から考えるとすごかったと思いますね。私が2年の秋の入替戦に出たんですが3-3で最終シングルで出まして、相手の最初のカーブが浅かったので思い切りスマッシュを決めたらのりまして、2本と5本で勝ちました。今でも鮮明に憶えています。それで慶応が1部に上がったわけです。

吉田 あの時岡本が監督でね、私と2人でね朝の4時まで飲んだっけ。  
(峰村和幸氏遅れて到着)

司会 それでは、低迷期を迎えていた頃の話をも峰村君に。

峰村 私は45年から48年までいたのですが当時は大学のバドミントン界全体が非常に強かった頃だと思います。慶応のチームも特に例年より見劣りがしなかったと思います。1部に昇格した日体大・青山学院大とは互角に戦っていました。ただ他のチームがより強かったという感じで。早慶戦も2度15-0で敗れました。バドミントンそのものが違う感じがしました。部員数は1年の頃は10人いるかないかです。4年の時も次の代に期待するということで下級生を鍛えることに主眼を置いてやりましたが苦勞しました。プレーを楽しむなんてことは味わえなかったですよ。

司会 その頃の監督の吉田さん。

吉田 試合に行くのも憂うつでね。早慶戦も連敗が続いてリーグ戦の方も2部に落ちたしね。まさか2部に落ちるとは思わなかったね。

峰村 慶応受験は学校のレベルが高いということでずいぶん敬遠されました。

司会 現在ではインターハイで活躍した選手が3・4年に1人くらいづつは入っています。

六角 慶応高校の方はどうなの。

清水 現在暗黒時代です。(笑) 地区の予選でも1回戦勝てるかどうか。でも来年になると普通部から有望選手が入ってくるので何とかなるとは思いますが。

司会 粕谷君、最新の情報として何か。

粕谷 僕らが1年の時に圧倒的な差をつけて早慶戦に勝ち大騒ぎしましたが、リーグ戦でも1部にいました。僕らが3年の時に2部に落ちて先輩が1部に居た人だから2部は優勝できるだろうと楽観してたら2部4位になっちゃったりして、早慶戦ももう一歩で勝てなくて。でも去年の秋は3年振りに2部優勝しましたが入れ替戦に負けました。

吹野 それじゃ、何で勝てないのか考えることだ。トレーニングならトレーニングでやり方を考えてやっているのだろうか。監督に聞いてみたいものだね。

粕谷 今はウエイトトレーニングを研究して各人の弱点に応じて行なっているみたいですね。

吹野 うん、他の強い大学もやっている筈だよ。

吉田 強い選手とより多くの練習する機会を求めなければだめだね。

★ これからの部へ



司 会 それでは最後に今後部がより発展するために後輩へこれは大事であるという御意見をお聞かせ下さい。

吹 野 やっぱりね一流プレーヤーは人のいない所で練習しているよ。体育館や道具が足りない時代が強くて今のように豊富な時代がどうして弱いんだろうか。自分にきびしくしなきゃ勝てないんだと思うよ。いかに集中して練習するかね。

六 角 それともうひとつ日常生活の中でのコンディション作りも大切だね。

吹 野 相手をくすすにはどうすればよいかということを常に考えてコートに入らないと絶対だめだね。つまり中身の濃い練習が必要だ。

粕 谷 この1年間で僕がいた時代よりも少しかわって来たのは個人練習が増えています。一長一短があると思いますが。

司 会 最近感じるのは自分のことだけはやるけどまわりに対しては何もやらない、つまり運動部の団体性が欠けた方向にうごいているような気がしてならないのですが。

吹 野 昔トッププレーヤーで下の弱いやつとやると下手になる、自分は自分の練習をしたいというのはいた。でもバドミントンは確かにやっているのは個人かもしれないが、部としてまとまってやっていくのには、協同の精神がなければだめだね。昔吉田なんかの時のプレーヤーは1人だけだったね。

吉 田 同期の部員は大勢いますがプレーヤーは石田だけです（笑）

吹 野 でもみんないっしょにやっていたね。自分の練習時間が少ない時でも石田や下級生のレギュラーを応援しよう、そういう気持があってこそはじめてひとつの部になるし、そうでないとまとまって強くなれないと思うよ。

司 会 そうですね。まとまり方をしらないような気がしてならないですね。

井 上 まわりからの要求に対する配慮がだんだん少なくなっていますね。自分のことだけをやればいいという感じで。自分たちの4年間ではなく長い部の歴史の中での4年間でありそこで何を留めて何を残していくかを真剣に考えるべきですね。そうすればOBとのつきあいも変わると思いますね

六 角 その辺はむずかしい問題だね。

吉 田 僕らの時代では石田をもちたてて、下級生をもちたてている気はなくていい選手になって勝てばいいという事で何ていうことはなかったのですが時代の流れでしょうね。体育会自体がなんといいていいか親分子分というような変なつながり、いい面はあったが悪い面もあったという気はするが、それはありましたね。

司 会 大変むずかしい問題にはいつてきましたがこれからそういった事を現役にも知ってもらって、また部の運営にもかかわっていただく方にもよく御協力頂きましてより発展した体育会の部にしたいと考えております。

本日はお忙しい所来て頂きましたのに、十分な話し合いも出来ずに申し訳け御座いませんでした。また会場を提供していただきました岡本さんに御礼申し上げます。

一 同 ごくろうさまでした。